

## ベートーヴェンと私の架空対談

酒井 邦嘉

ベートーヴェン（以下B）：21世紀のヨーロッパ（日本）に時空を超えて居られるのは、ごく短い時間だけだ。僕は普通にドイツ語で話すから、君はこの会話帳にドイツ語で書いてくれたまえ。

私：まず、弦楽四重奏曲では何番がお気に入りでしょうか。

B：12番かな。この曲で新しい音楽の世界に踏み込んだという手応えがある。

私：弦楽四重奏曲が全部で16曲ということに

は、何か特別な意味があるのでしょうか。

**B**：カルテットは「4掛ける4」という数が究極だ。「そうでなければならない」と16番の楽譜に書いたように、音楽にも必然性や制約が役立つのだ。同じ歌詞をつけたカノン（WoO196）は僕流のユーモアだけけれども。

それなら、ピアノソナタが全部で32曲ある意味も分かるかね？

**私**：2つの手に5本の指……。2を5回掛け合わせて32ですね。

**B**：制約が芸術を創るのだ。君の『芸術を創る脳』にも書いてあった通り。

**私**：「ラズモフスキー第1番」の冒頭で、ご自身は減多に使うことのなかったメゾフォルテ（mf）を指定したのは、どんな意図があったからでしょうか。

**B**：チェロがピアノ（p）では弱すぎるし、フォルテでは強すぎる。だから、このチェロの主題はメゾフォルテで、他の伴奏は極力抑えなければならない。チェロのソロで曲が始まること自体、大胆な試みだからね。僕の自筆譜は見てくれたかな。

**私**：はい、自筆譜のファクシミリで3箇所とも確認しました。チェロソナタ第3番は、その発展形なのですね。

最後に、第13番の終楽章として大フーガを演奏すべきかどうかを伺いたいのですが。

**B**：楽曲全体のテーマは確かに大フーガが支配している。でも、あの美しい第5楽章に続けるのなら、軽快な終曲も見事に調和する。少なくとも僕の音楽は、自分の心から他者の心へのメッセージを意図しているので、その意図を汲み取ってくれば良い。

**私**：そのメッセージが受け取れるように、想像力を豊かにして聴いてみたいと思います。（握手）